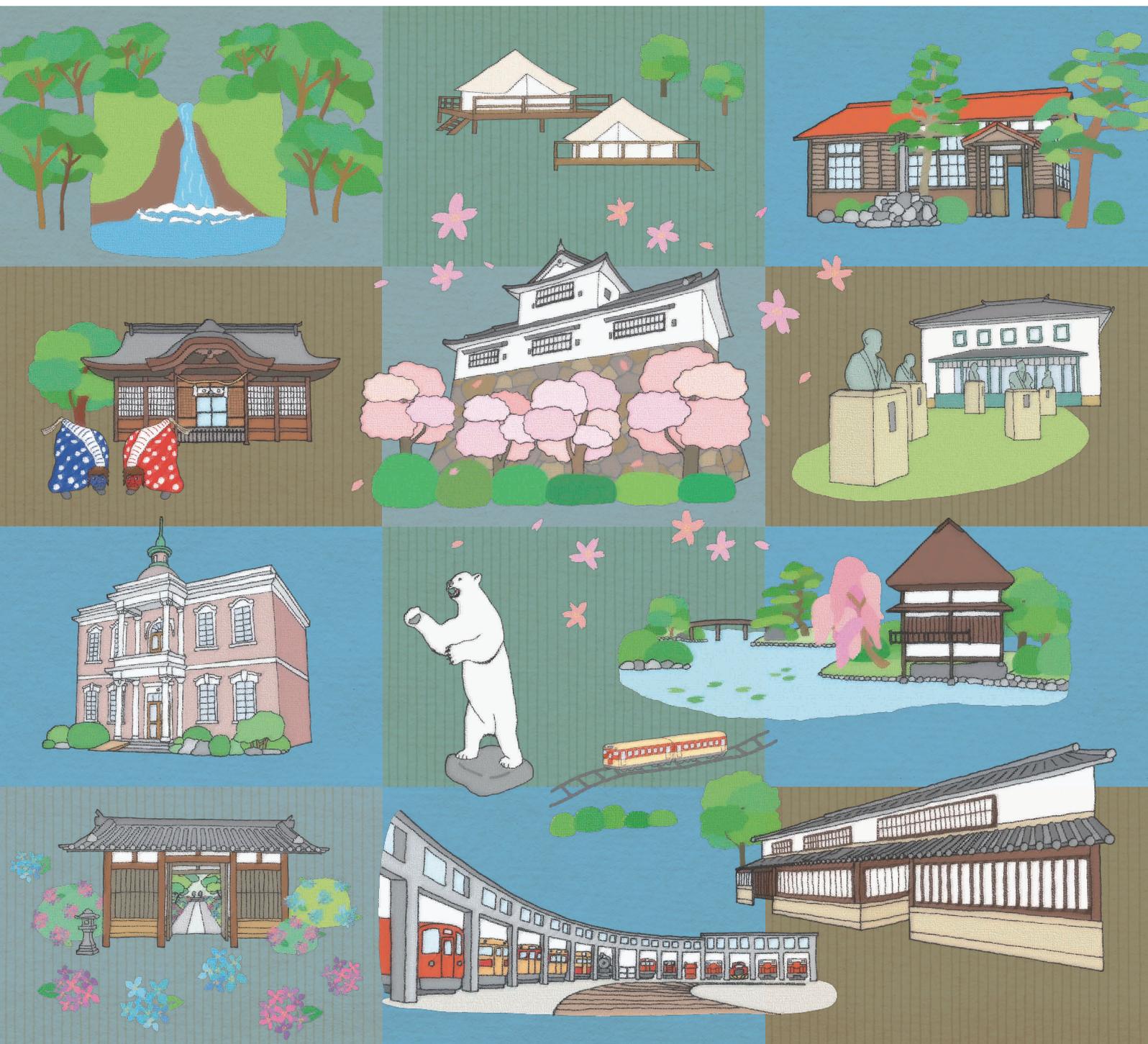




津山まちじゅう博物館構想

～歴史を未来につなぎ、新たな魅力創造へ！～



目次

市長あいさつ

1	はじめに	1
2	まちじゅう博物館構想の位置づけ	1～2
3	策定の経過	3～4
	(1) 市民懇談会の設置と意見聴取	
	(2) 有識者会議の設置と意見聴取	
	(3) 実務者会議の設置と具体的な施策・事業の検討	
	(4) アンケート調査	
	(5) 市外大学生からの意見聴取	
	(6) 構想策定の推進体制	
4	津山市の課題の整理	5～6
	(1) 津山らしさの共有と津山遺産の発掘と創造	
	(2) 担い手となる人材の確保	
	(3) インフラ等の整備	
	(4) 魅力づくりと観光客誘致	
5	津山が目指す屋根のない博物館の姿	7～8
6	構想の理念と概要	9～10
	(1) 基本理念	
	(2) 構想の概要	
7	住民と行政の役割	11
	(1) 住民に期待される役割	
	(2) 行政が果たす役割	
8	構想の実現に向けて	11～13
	(1) 基本方針 [まちじゅう博物館構想の4つの柱]	
	(2) 施策・事業の推進	
	(3) 構想を実現するための取組	
	語句説明	14
	津山まちじゅう博物館構想の概要図	15～16

[参考資料]

● 市民懇談会実施結果報告	17～20
● 有識者会議実施結果報告	21～22
● 津山まちじゅう博物館構想に関するアンケート調査報告	23～28
● 甲南大学FW実施結果報告	29～30

まちじゅう博物館構想の策定にあたって

津山は、独特の歴史と文化と自然に彩られたすばらしいまちであり、高いポテンシャルを持っています。

私は、このポテンシャルを活かし、津山のアイデンティティとして確立するために、津山を屋根のない博物館と捉え、点在するそれぞれの津山らしさを点から線、また、面から群へとつなぎあわせ、新たな魅力を創造する活動を進めることが必要であると考え、まちじゅう博物館構想を策定しました。



本構想を進めることにより、自らが進んで物事に取り組む津山人の進取の気質と、津山ならではの遺産や自然などが融合し、新しいムーブメントとなり、このまちが未来に向けて変貌を遂げていくことを私は信じています。

幕末以来培われてきた洋学の精神は、津山人のプライドとして受け継がれ、時代に挑戦するその姿勢は、変化に対応するための様々なイノベーション創造の原動力となり、未来にメッセージを発信し続けていきます。

本構想に基づいて各種施策を着実に推進し、住民と行政が一体となって、津山にしかないもの、津山でしかできないことを探求、追求し、津山の未来を創造するための方針として掲げ、取り組んでまいりたいと考えていますので、住民の皆様のご理解、ご協力と積極的な参画をお願いいたします。

最後に、本構想策定にあたり、多くの皆様から貴重なご意見、ご提言をいただきましたことに対し厚くお礼申し上げます。

津山市長 谷口 壱三



1 || はじめに

津山市は、中国山地に抱かれた津山盆地を中心に発展してきた自然と文化にあふれる豊かな地域であり、古代から現代に至る人々の絶え間ない営みのなかで育まれてきた伝統文化が今に伝えられています。先人たちが守り、作り上げてきた歴史、文化に包まれた固有の風土があり、過去から現在に至る地域住民の営みによって生まれた寺社仏閣や歴史的な町並、古墳や城跡等の史跡、山々や清らかな水が流れる吉井川から成る豊かな自然が津山らしさを生み出しています。特に、津山城跡の石垣は、日本三大平山城に数えられるほどの雄大さで往時の威光を今に伝えており、津山のシンボルとして、津山市民の誇りとなっています。

また、戦災や大規模な震災に遭わなかったことから、市内中心部は江戸時代に形成された地割りや建築物が比較的に残っています。そのため、江戸時代からの建物に混ざり、明治以降の近代建築がモザイク状に建設され、近世・近代・現代の建築物が混在する固有の景観を持つ町並を形成しています。

江戸時代後期には、宇田川玄随、玄真、榕菴や箕作阮甫など、日本の近代化の礎となった蘭学・洋学者を輩出しています。彼らに影響を受けた多くの若者が学問に励み、地域の医療や教育に尽力するなど、洋学のまち津山の精神は、積極的に新しい物事に取り組んでいこうとする進取の気質として今に受け継がれ、津山らしさのひとつとなっています。

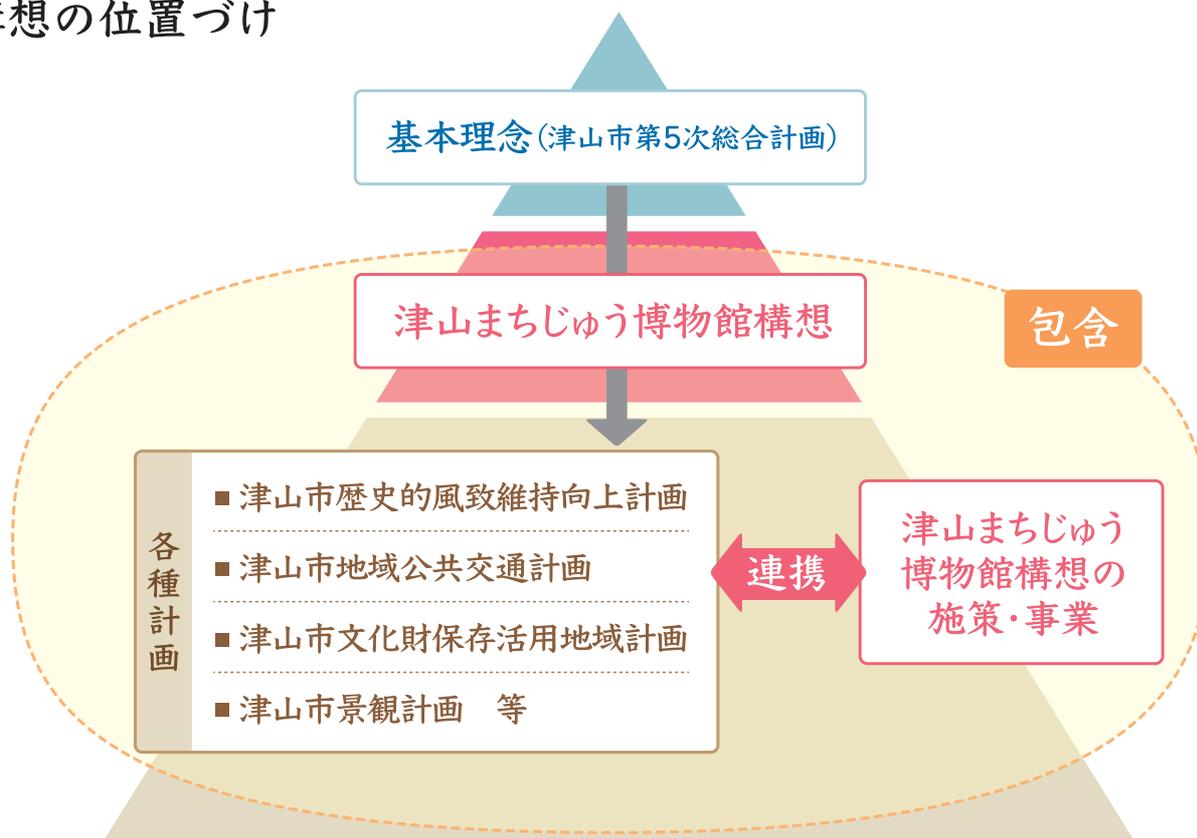
令和2年に策定した津山市文化財保存活用地域計画では、既存のデータに加え、市民とのワークショップを通じて未指定・未登録のものを含む3,000を超える文化財を拾いあげ、これらを未来につなげたい有形・無形の宝物として「津山遺産」と定義しました。このことは、津山が歴史や文化、伝統、風俗、自然などの魅力の宝庫であり、他のどの地域にも負けない素晴らしい固有の価値を持ち、全国や海外からも注目される高いポテンシャルを秘めたまちであることを示しています。

本市では、市域全体を屋根のない博物館（エコミュージアム※1⇒P14）と捉え、点在する津山遺産のすばらしさを住民が再認識し、津山らしさとして守り、活かし、さらに創造することで、未来に引き継ぐとともに、地域住民と行政が協働で特色あるまちづくり施策を展開するための方針をまとめた「津山まちじゅう博物館構想」を策定します。

2 || まちじゅう博物館構想の位置づけ

まちじゅう博物館構想は、本市の中長期的なビジョンや政策を示す総合計画の下位に位置し、津山城下まちづくりビジョン、津山市歴史的風致維持向上計画、津山市文化財保存活用地域計画など、都市基盤整備などのまちづくり、文化財の保存や活用などの各種計画を包含するものとします。本構想実現のため展開する施策・事業は、各種計画と連携し取り組むこととします。

構想の位置づけ



構想に関連する主な計画

名称	概要	計画期間
■ 津山市第5次総合計画	津山市の総合的なまちづくりの指針	H28.4～R8.3
■ 津山城下まちづくりビジョン	城下地区のまちづくりに関する将来ビジョン	R4.8から概ね5年
■ 津山市歴史的風致維持向上計画	歴史的風致の維持・向上を図ることで歴史的な町並みや伝統文化を継承し、人口増及び地域活性化を進める計画	R1.4～R11.3
■ 津山市都市計画マスタープラン	津山市のまちづくりや土地利用のあり方、都市施設の整備など、都市計画の基本的な方針を定めたマスタープラン	R2.4～R23.3
■ 津山市景観計画	津山市の良好な景観を創出するための計画	H28.4～
■ 津山市地域公共交通計画	津山市の公共交通に関するマスタープラン	R5.4～R10.3
■ スマートシティ構想	スマートシティ構築に向けた取組の基本構想	R5.4～R8.3
■ 津山市文化財保存活用地域計画	文化財の保存・活用に関する将来ビジョン及び具体事業の実施計画	R2.4～R8.3

3 || 策定の経過

まちじゅう博物館構想は、住民主導による策定を旨とし、市民懇談会、有識者会議を設置するとともに、アンケート調査を実施し、できるだけ多くの住民の意見を聴取し構想に反映しました。

1 市民懇談会の設置と意見聴取

まちじゅう博物館構想は、住民主導で策定するために、市民懇談会を組織し、住民の率直な意見や要望、課題認識や問題意識を聴取し、住民が考える津山遺産の保存・活用策、課題や問題を克服するために必要な施策・事業を構想に反映しました。



市民懇談会の様子

2 有識者会議の設置と意見聴取

学識経験者、地域経済界などにより組織した有識者会議において、専門的な見識のもと、まちじゅう博物館構想についての骨格、記述内容についての検討結果を構想に反映しました。



有識者会議の様子

3 実務者会議の設置と具体的な施策・事業の検討

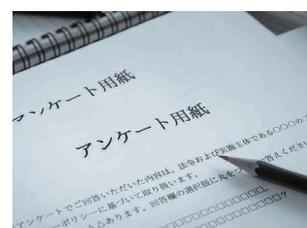
市の関係部局による実務者会議を立ち上げ、市民懇談会、有識者会議で出された意見や要望をもとに、まちじゅう博物館構想を具現化するための施策・事業の検討を行い構想に反映しました。

4 アンケート調査

住民、来訪者などの関係者に対し、アンケート調査を実施しました。

1. 津山エコミュージアムに関するアンケート調査

2. 住民アンケート調査



5 市外大学生からの意見聴取

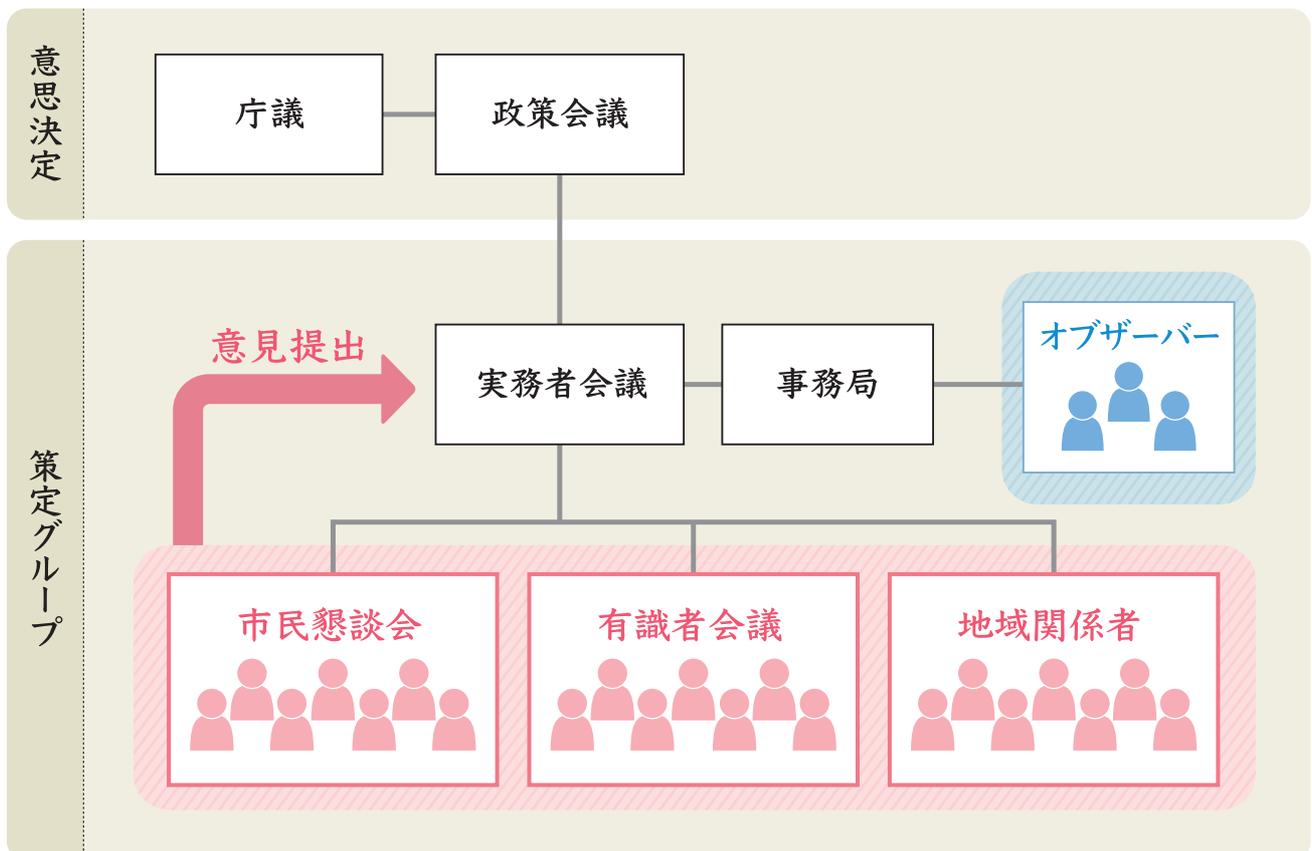
津山市の現状と課題、必要な対策等について、市外の学生からの率直な意見や要望を聴取し、構想に活かすために、甲南大学によるフィールドワークを実施しました。



甲南大学生のフィールドワークの様子

6 構想策定の推進体制

市民懇談会、有識者会議、地域関係者からの意見や要望などをもとに、実務者会議において、構想の内容及び構想を具現化するための施策・事業の検討を行い、事務局において、構想案を作成しました。そののち、市の政策決定スキームである政策会議、庁議を経て策定しました。



4 || 津山市の課題の整理

① 津山らしさの共有と津山遺産の発掘と創造

住民自身が、津山の歴史や文化、伝統、風俗、自然などの宝物の存在を再認識し、そのポテンシャルの高さをお互いに共有する必要があります。また、埋もれている遺産を発掘し、新たな魅力創造を進め、津山らしさをさらに高める活動が求められています。



② 担い手となる人材の確保

津山市の人口は、1995年（平成7年）から減少に転じ、2020年（令和2年）には10万人を割り込み、2022年（令和4年）4月に公表したデータによると、99,315人となるなど、人口減少が続いています。

また、18歳の崖と呼ばれる若者の地域外への流出が続いており、このままの状況が継続すると、津山らしさを残すための担い手不足が生じる可能性があります。

住民の意識についてですが、市民懇談会で「そもそも津山のことをよく知らない」、「津山のことを話し合う場がない」、「津山のことを勉強する機会がない」という意見が多く出されています。幼稚園、小中学校での郷土愛を育む教育においては、「ふるさとを愛し津山人としての誇りを持って生きていける人を育てる」という教育大綱を掲げ、伝統的な遊びや文化などの学習「つやま郷土学」の機会を設けていますが、全市的な取組にまで至っていません。郷土愛を醸成するためには、全市民が津山のことをもっと知る機会を設ける必要があります。

このため、市民の誇りの醸成を進め、津山でしかできない人づくり活動の構築とあわせて何かやってみたいという人へチャレンジの機会を与える仕組づくりを行うとともに、「オンパク手法※2⇒P14」に代表されるような住民の自発的な活動の促進と支援が求められます。



「つやま郷土学」の様子

3 インフラ等の整備

市民懇談会や市外からの来訪者から「道路の拡幅や無電柱化の推進」、「駐車場やトイレなどの整備」、「わかりやすい案内看板の設置」など、利便性向上や美しい環境整備、観光客への配慮などの意見が多く出されています。「観光地内の車両通行のあり方の検討」と「駐車場、トイレなどの便益施設の整備」、「まちをめぐる際の利便性の確保」、「景観整備など津山らしさづくり」のため計画的に整備を進める必要があります。

あわせて、まち全体においては、建物の老朽化が進み、空き家や空き店舗が増え、町並の保全と安全の確保が課題となっています。



公衆トイレ整備のイメージ

4 魅力づくりと観光客誘致

令和元年岡山県観光客動態調査によると、津山市（津山・鶴山公園）の観光客数は、岡山県内の主な観光地域の中で、倉敷美観地区、後楽園・岡山城周辺、蒜山高原などに次いで、6番目であり、認知度が高いとはいえません。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前までの観光客数は、年間約190万人程度で推移していますが、観光目的は、ほぼ鶴山公園と津山まなびの鉄道館に集中しています。また、津山市は、近隣の温泉地、あるいは、京阪神や広島地域に向かう観光客の通過点として捉えられており、目的地として認識されていないと分析されています。

観光客誘致のためには、現在活かし切れていない本市の持つポテンシャルの高さを最大限に活かし、これまでの誘客施策に加え、点在している津山遺産をストーリーやゾーニングによりつなぎあわせ、新たな魅力づくりを行い、発信していく必要があります。

なお、津山を訪れる観光客は、岡山県内居住者の割合が高く、県外は、兵庫、大阪、鳥取、広島からが多くなっています。情報発信やPR活動を行う際には、こうしたエビデンスをきちんと把握するとともに、ニーズ調査を実施し、課題や問題点、あるいは、アピールポイントなどを明確につかんだ上で、魅力的な施策づくりを行い、経済的な効果を求めていく必要があります。



5 || 津山が目指す屋根のない博物館の姿

1 古代から近世、近代のそれぞれの時代にどっぷりつかることができるまち

古くは、美作国の国府が置かれ、政治経済の中心として発展してきた歴史を物語る遺跡に始まり、特に、津山城跡を中心としたエリアは、津山を象徴する歴史文化ゾーンとして整備され、ここを核として、城東、城西地区の重要伝統的建造物群保存地区などを周遊し見学することで、まるでタイムスリップしたかのような歴史や文化や風情を体感することができ、学びと知識向上、浪漫を感じることができる。

2 人それぞれの嗜好に対応した楽しみ方が提供できるまち

時代ごとの歴史文化遺産に加え、郊外に行けば、山や川といった自然を満喫し、心のやすらぎや癒やしを得ることができ、キャンプやグランピング、釣りといった野外活動により体もリフレッシュできる。歴史スポットや津山の見所などを周遊できるような道路網も整備され駐車場やトイレも充実している。

3 来るたびに来訪者に様々な発見と交流があり、そこに感動が生まれ再度訪問したくなるまち

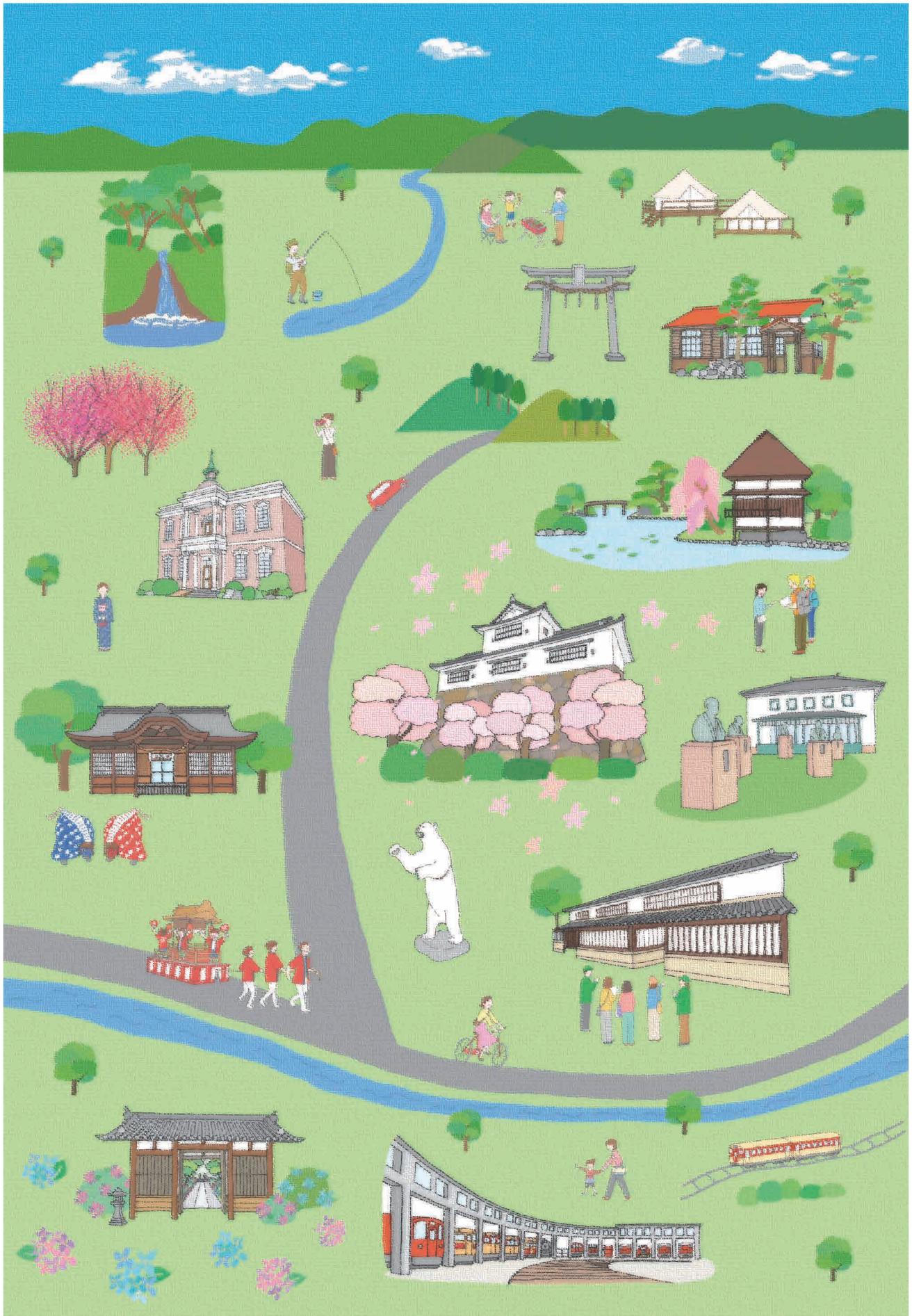
津山らしい景観が整備され、まちじゅうに津山らしさを感じることができるような統一感があり、津山でしか味わえない雰囲気を感じられる。肉料理や地酒など、おいしいものが食べられ、津山に住む人々との交流が図られ知り合いや仲間づくりができる。

4 津山人の気質あふれる時代に挑戦する機運の感じられるまち

住民は進取の気質にあふれ、「ウェルビーイング※3⇒P14」を実現するために、各地域で、様々な活動に取り組み、新たなムーブメントでまち全体が活気にあふれている。また、そうした機運は、新しいことに挑戦できるまちとして認知されることとなり、域外の人を呼び込むことができる。

5 地域住民と行政が一体となり、津山らしさを未来につなぐための様々な活動を行っているまち

地域の住民は、市域に数多に存在する津山遺産を、守り、活かし、津山にしかないものを育み、磨き上げ、魅力を高め、愛着と誇りを持ち、自らが研究者あるいはデザイナーとなって、未来をデザインし、津山らしさを創造する。その活動が、域外の方々を呼び込む大きな吸引力となる。



屋根のない博物館のイメージ図

6 || 構想の理念と概要

1 基本理念

～津山を未来に引き継ぐための「津山らしさ」の創造と地域活力の向上～

本市の歴史・文化・自然などの多くの津山遺産を再認識し、守り、活かし、磨き上げることで、地域のポテンシャルを高めるとともに、住民自らが、主体となり、新たな視点や価値観をもとに、未来をデザインし、津山らしさを創造するとともに、こうした活動を通じて、地域活力の向上を図ります。



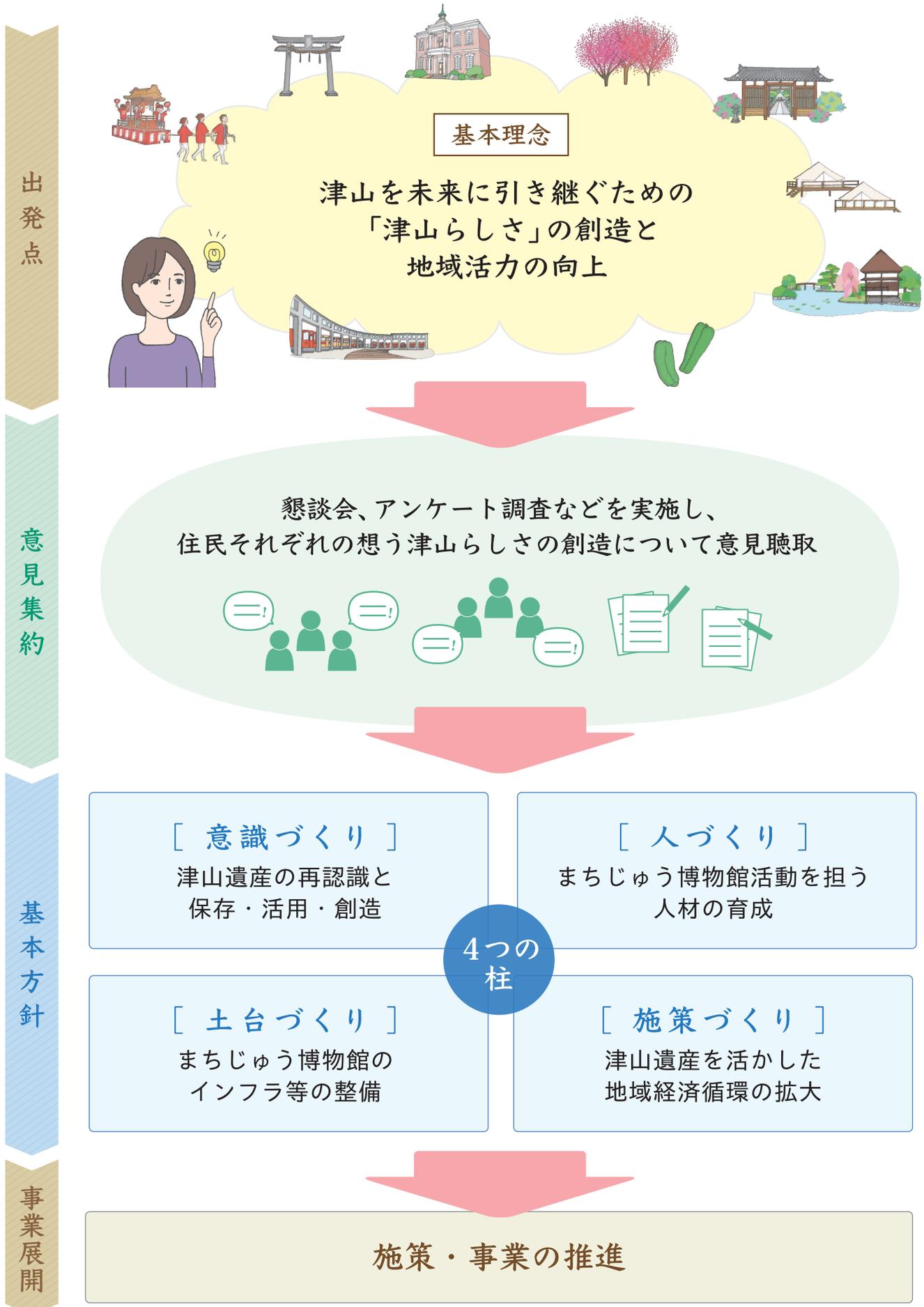
2 構想の概要

構想策定にあたっては、住民が主体となって考え、望むことが構想となるように、市民懇談会、アンケート調査を行い、住民参画を図り意見反映を行いました。また、1970年代にフランスで提唱された「エコミュージアム※1⇒P14」、環境汚染や自然破壊などにつながる商業化を避けて、地域の自然や歴史、伝統文化を活かした観光地づくりを進める「サステナブルツーリズム※4⇒P14」、そして、中心市街地、中山間地域のそれぞれが自立・分散型社会をつくり、地域同士が互いに資源を補完しながら支えあうという考え方をもってエリアとして捉える「地域循環共生圏※5⇒P14」の発想を取り入れました。

目的を達成するための施策・事業は、目的の明確化⇒現状の問題把握と課題の抽出・分析⇒解決策の検討と実践⇒成果の検証と施策・事業の見直しというサイクルを回し、推進していきます。

その結果、目的達成のために必要な施策は、「津山遺産の再認識と創造、津山らしさの共有」、「担い手の育成と津山遺産を知る機会づくり」、「景観や道路、駐車場などの整備、空き家の活用」、「津山遺産の活用策と魅力あるストーリーの検討、情報発信とPR活動の強化」の4つの視点をもって構成することとしました。

構想から施策・事業推進までの流れ



7 || 住民と行政の役割

住民 に期待される役割	行政 が果たす役割
<p>1 住民が津山遺産を再認識し、主体となって地域の資源として保存・活用・創造を進める。</p>	<p>1 関係部局で連携し、構想実現のための施策づくりを行う。</p>
<p>2 津山市民としての誇りと津山への愛着を持ち、住民意識の向上を図る。</p>	<p>2 住民意識の向上を図るため、津山をもっと知るための取組を進める。</p>
<p>3 現存するコミュニティの強化と新しいコミュニティづくりを進め、連帯と連携の意識を高める。</p>	<p>3 構想を実現するために必要な人材を育成する。</p>
<p>4 おもてなしの意識を持って、来訪者に津山らしさを伝えていく。</p>	<p>4 住民の自発的な活動をサポートする。</p>
	<p>5 修理・修景、無電柱化、駐車場整備など、統一感のある景観や利便性を高めるためのインフラ等を整備する。</p>
	<p>6 まちじゅう博物館構想の効果を検証する。</p>

8 || 構想の実現に向けて

1 基本方針 [まちじゅう博物館構想の4つの柱]

柱
その1

意識づくり

津山遺産の再認識と 保存・活用・創造

住民が津山遺産を再認識し、守り、育み、磨き上げることで、津山らしさを実感し、未来に引き継ぐための共通の意識づくりを行います。



柱
その2

人づくり

まちじゅう博物館活動を担う人材の育成

津山遺産を未来に引き継ぐ人材を育成するために、市民解説員を養成します。また、人材をつなぐ仕組みやネットワークづくりを行うとともに、「オンパク手法※2⇒P14」による住民活動など、住民の自主的な活動を支援します。併せて、起業・創業支援による将来の地域の担い手となる人材の育成を図ります。



「津山ボランティアガイドの会」による観光ガイドの様子

柱
その3

土台づくり

まちじゅう博物館のインフラ等の整備

津山の景観を守り、魅力向上を進めるために、まちとして統一感のある景観（歴史的風致維持向上計画や景観計画にかかる事業の推進、無電柱化、屋外広告物規制など）や、利便性を高めるための駐車場、拠点施設などの整備を行い、おもてなし空間づくりを進めます。



柱
その4

施策づくり

津山遺産を活かした地域経済循環の拡大

津山遺産の活用策の検討、市内を回遊するための魅力あるストーリーやゾーニングなどの魅力づくりを行い、SNSやインフルエンサーなどを活用し、効果的な情報発信やPR活動などにより、観光客の誘致を進めます。また、あわせて、組織づくりや資金調達先の確保など、公民連携による事業推進体制を構築します。



2 施策・事業の推進

1. 施策・事業を構築するためのスキーム

まちじゅう博物館構想を策定する際に開催した市民懇談会、有識者会議で出された意見・要望のほか、あらためて住民や民間事業者、関係する方々からの意見を聴取し、そのとりまとめを行い、庁内の関係する部局と連携、協力し必要な施策・事業を構築します。

2. 住民主導による事業展開のサポート

行政は、住民自身が何がしたいかを理解し、住民の自発的な活動をサポートします。

3. 根拠となるデータ収集

施策・事業を構築するうえで、必要となるデータを収集する際には、制度設計をしっかりと行い、効果的、かつ、実効性の高いデータ収集に努めます。また、収集したデータについては、早急に関係部局や関係者との情報共有を行います。

3 構想を実現するための取組

1. 地域の特性を活かした効果的な施策の展開

津山は、都市化の進んだ地域、加茂、阿波、勝北、久米地域のように、澄んだ水とおいしい空気に包まれた美しい自然に囲まれた中山間地域を有しており、それぞれの地域に歴史と伝統文化が息づいています。加茂地域は美作桜の産地で有名であり、阿波地域は、自然そのものを満喫するグランピングで賑わっています。勝北地域においては、広戸仙の登山、トレッキングのリピーターも多く、久米地域の道の駅「久米の里」では、地域の特産品や地元産の野菜の販売で全国的にも有数の販売実績を上げています。こうしたそれぞれの地域が持つポテンシャルを活かした効果的な施策・事業を展開していきます。

2. 実施主体となる機関づくり

取組を推進するための仕組として、市、関係団体等によるコンソーシアムを立ち上げ、各種施策・事業を展開するとともに、資金調達先の確保などを行います。

3. PDCAサイクル

PDCAサイクルを回し、効果的な施策・事業の展開を図ります。

※1 エコミュージアムの定義〔文部科学省〕

「ある一定の文化圏を構成する地域の人々の生活と、その自然、文化および社会環境の発展過程を史的に研究し、それらの遺産を現地において保存、育成、展示することによって、当該地域社会の発展に寄与することを目的とする野外博物館」と定義づけられている。

- ① エコミュージアムは行政と住民が一緒に構想し、運営していくものであり、行政は専門家と施設や資金を、住民は知識と能力を提供しあって作り上げていくものである。
- ② エコミュージアムは居住する地域の歴史・文化・生活などを理解して住民が自らを認識する場であるとともに、来訪者に自らが生活する地域を理解してもらうための場でもある。
- ③ 人間は伝統的社会・産業社会の中でも自然と関わって生活してきており、それを理解する場所がエコミュージアムである。
- ④ エコミュージアムは先史時代から現在に至るまでの時間の流れの中で人々の生活を捉え、未来を展望していくものである。しかし、エコミュージアムは未来を決定する機関ではなく情報と批評的分析の役割を果たすところである。
- ⑤ エコミュージアムは歩いたり、見学することができる恵まれた空間である。
- ⑥ エコミュージアムは外部研究機関と協力しながら地域研究に貢献し、その分野の専門家を育成する「研究所」である。
- ⑦ エコミュージアムは自然遺産や文化遺産を保護し、活用を支援する「保存期間」である。
- ⑧ エコミュージアムは地域研究や遺産の保護活動に住民の参加を促し、将来、想定される地域の様々な問題に対し理解を深めるための「学校」である。

※2 オンパク手法

オンパク（「別府八湯温泉博覧会」の略称）は、2001年にNPO法人ハットウ・オンパクが始めたイベントで、小規模で多彩な体験交流型のプログラムを一定の期間に集中して提供した。別府でスタートしたオンパク事業は、単に別府だけに通用するものでなく、地域資源の発掘とその商品化、人材の育成を担いつつ、まちづくりプラットフォームの形成による収益性の強化を実現し、まちづくりの推進母体となる自立・持続可能な事業モデル（＝「オンパク」モデル）となっている。

※3 ウェルビーイング〔厚生労働省〕

個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

※4 サステナブルツーリズム（持続可能な観光）〔国連世界観光機関〕

訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光。

※5 地域循環共生圏〔環境省〕

各地域が美しい自然環境等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特定に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方。

津山まちじゅう博物館構想の概要図

